

情報を埋没させずに利用できるようにする (IRSME15039)

平成 28 年 2 月 25 日 原田長州

メールやグループウェアの掲示板やファイル共有、社内 Wiki があっても社内の情報共有がうまくいかないことは多い。インターネット上で提供されるサービスには、情報共有に特化したものがある。今回は 2 つのサービスを選び比較検討を行った。

■ Qiita:Team¹

Increments 株式会社が提供するプログラミング関連の知識を共有するサイト「Qiita」がある。ここでは、チーム内で情報を共有できるサービスに特化した「Qiita:Team」というサービスがある。

このサービスを利用すると情報を共有するために記事（ページ）をつくることができる。具体的には、文書の行頭に#などの記号を入れることで文字に見出しや装飾、リンクなどをくわえることができ、記事にはタグ付けなどが可能で情報の整理が可能だ。

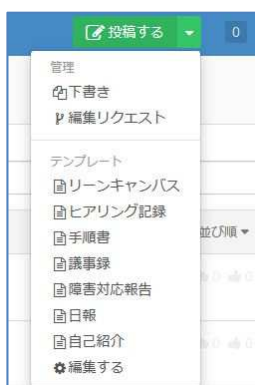


図 1. 記事投稿時にテンプレートを選択することができる

記事を追加する場合のテンプレートの種類が豊富で、テンプレートの内容についても完成度が高いと感じた。

導入済企業のインタビュー記事では、どのように知見を共有するかについて「ゆるい」ことや「まとまりのない」ことを書くことを推奨している例が紹介されている。心理的なハードルが高くなりがちな知識の共有を気軽にはじめることの重要さが記載されている。

ソフトウェア上の機能よりもチームメンバーに参加を促すこと、参加者が情報を共有することをためらわないことが重要であると感じた。

■ esa²

合同会社 esa が提供する「esa」は、ポストという単位で文書を共有するサービスである。文書の見出しや装飾などの機能があり、文書をタグ付けして管理することもできる。新規文書用にテンプレートもある。

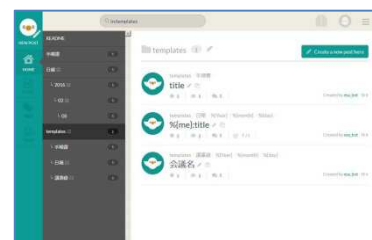


図 2.esa にログインした状態の画面イメージ

¹ <https://teams.qiita.com/>

² <https://esa.io/>

平成 28 年 2 月 25 日

(IRSME15039) 情報を埋没させずに利用できるようにする

文書を保存する際に WIP(working in progress 作業中)として保存できるようになっており、書きかけであることを示すことができる。書きかけであってもチーム内へ公開することで、情報の追加を受け入れられる可能性がある。

■ まとめ

機能自体は「Qiita:Team」と「esa」のできることに、できないことレベルの差はない。Slack³やChatwork⁴などのチャットサービスとの関係も同様に可能である。記事やポストについては修正した履歴が残るため、誰がどのような編集を加えたのかもわかる。

あえていうならば、サービスとしての完成度はテンプレートが使いやすい「Qiita:Team」が上回っていると感じた。このようなサービスは、必要性を感じるメンバーだけが使っておけばよいというわけではない。このままで良いと考えるメンバーを含めた全員に使ってもらわなければ、情報共有の改善はなされない。全員が使うような動機づけをすることが重要である。

情報共有は重要であるという認識はあっても、どのような手段やどのような方法で情報をすくいと上げて共有するかが落とし込んでいるケースは多くないのではないか。どちらのサービスも無料で試用することができるため、情報共有の手段として検討したい。(了)

³ <https://slack.com/>

⁴ <http://www.chatwork.com/>